

第53期青年部労働学校

団結し声を上げ続けることが、職場改善につながっていく

10月24日、第2回青年部委員会・第53期青年部労働学校をラッセホールで開催し、約50人が参加した。労働学校では、三木青年部長から「青年教職員の職場生活実態について～2026青年部生活・職場実態調査のとりくみから～」および「だれもが安心して働き続けられる職場をめざして」と題した二つの問題提起をおこなった。

その後、地区ごとに分散会をおこない、対県要請行動の要請内容等について協議した（生活・職場実態調査を一部抜粋）。



竹内青年部副部長



三木青年部長

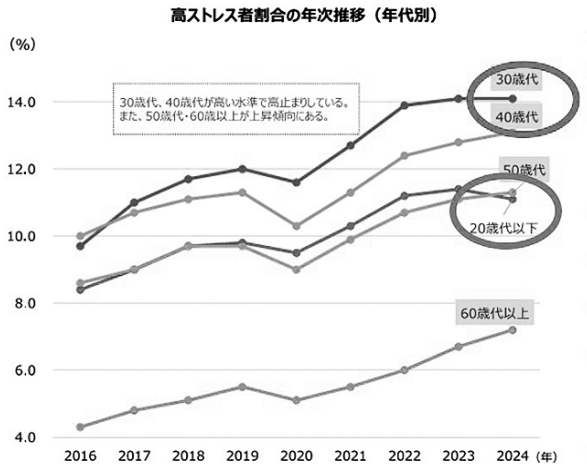
教育ひょうご
発行所　神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人　兵庫県教職員組合代表者　森戸卓也
編集人　松浦明日香
電話　050（3538）2346
1部15円　年定価360円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）
2026/11・15
No.2152

・各専門部対県要請行動
・高校生平和大使
・「男女共同参画」コラム

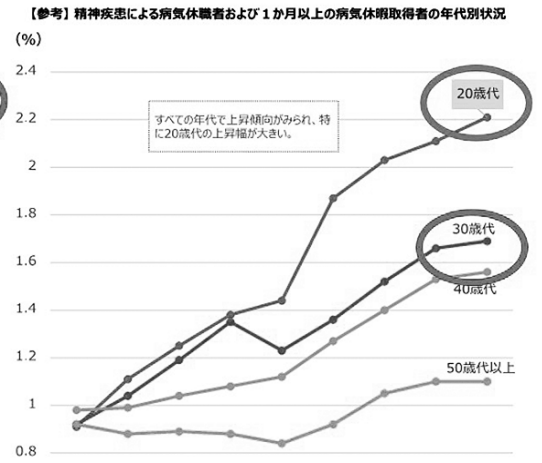
公立学校共済組合のストレスチェックデータ分析結果報告書（公表用）　令和8年3月

分析結果①-1　高ストレス者割合の状況（年代別）

高ストレス者割合の年次推移（年代別）

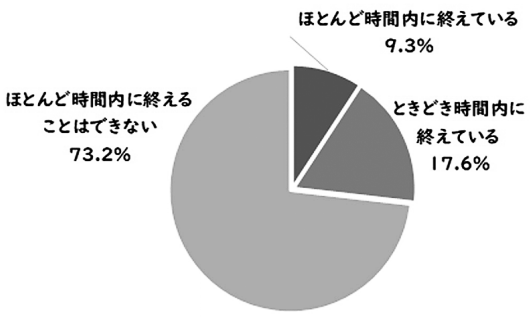


【参考】精神疾患による病気休職者および1か月以上の病気休暇取得者の年代別状況



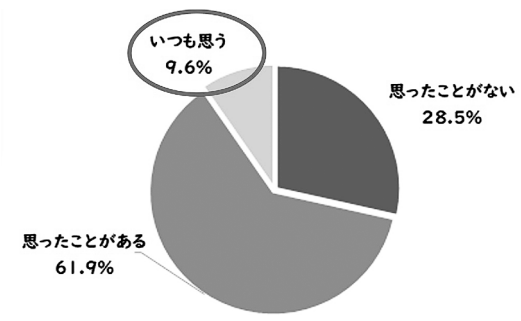
【図1】

Q. あなたは、仕事を勤務時間内に終えることができていますか？



【図3】

Q. あなたは、教職員という仕事を「やめたい」と思うことがありますか？



○問題提起Ⅰ
「青年教職員の職場生活実態について～2026青年部生活・職場実態調査のとりくみから～」

実態調査には1，890人が回答し、多くの教職員が業務量の多さ、人間関係、子ども・保護者対応に悩みを抱えていることがあきらかになった。

あわせて、公立学校共済組合の報告によると、20～30代の教職員の精神疾患による休職者が増加している実態がある。（上図）

◆時間外勤務は平均約2時間15分におよび、休憩時間も十分確保できていない現状がある。【図1】

◆部活動やクラブ活動では、専門外指導や拘束時間の長さ、自己負担などが課題となっている。【図2】

◆採用1・2年めや臨時的任用職員には大きな不安があり、「辞めたいと思ったことがある」という声も多い。【図3】

◆外部人材の活用、教育予算の増額、ハラスメント対策などをもとめる声が多く寄せられている。【図4】

○問題提起Ⅱ
「誰もが安心して働き続けられる職場をめざして」

職場の課題を改善するためには、「誰に訴えるべき課題なのか」を見極めることが重要であり、学校、教育委員会、県、国それぞれに働きかける必要がある。

また、ジャンボはがきや要求書、人事委員会への要請、対県確定闘争などが職場改善につながる具体的なとりくみである。

こうしたこれまでの組合運動によって、育児休業制度や35人学級、駐車場代の一部支給などを実現してきた。

子どもの未来のために教職員が人間らしく働ける職場が必要である。

一人ではさな声でも、仲間と団結して声を上げることが職場改善につながっていく。



○分散会

分散会では、各地区ごとにわかれ、学校現場で困っていることや改善してほしいことを交流した。

業務の削減、人員確保、休憩時間の確保、部活動の負担軽減などについて意見交換がおこなわれ、実際に職場で改善できた事例や工夫などが共有された。

各分散会で出された意見や職場実態を、今後の要請行動や対県確定闘争に反映していくことが確認され、青年部として、安心して働き続けられる教育現場の実現にむけてとりくみをすすめる意思統一がはかられた。



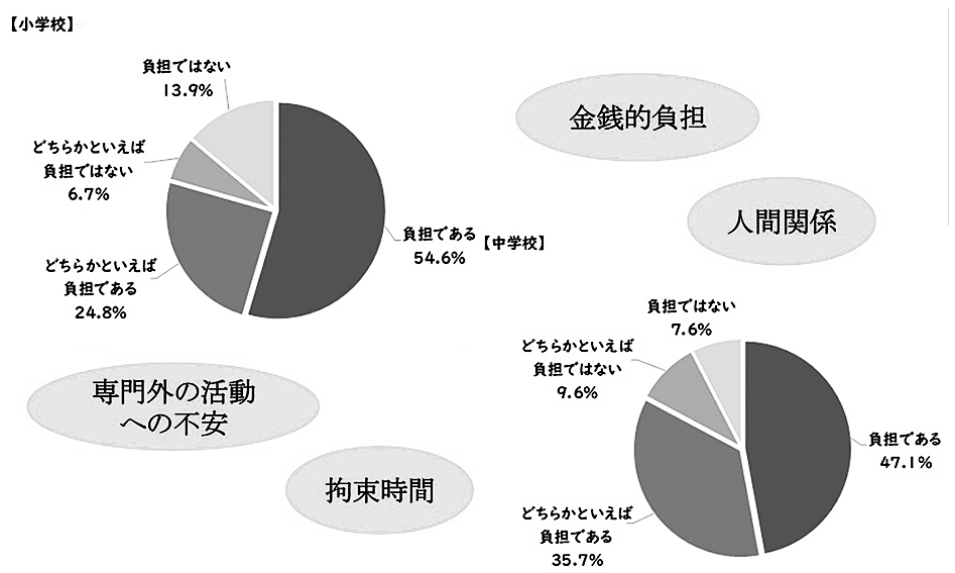


○おわりに

三木青年部長は、現場の課題を改善するためには、諦めずに声を上げ続けることが必要と呼びかけた。また、青年教職員の声を集め、仲間と団結して県教委や国へ働きかけていくことの重要性を訴え、子どもの未来のために、教職員が安心して働ける職場づくりをすすめていこうと締めくくった。

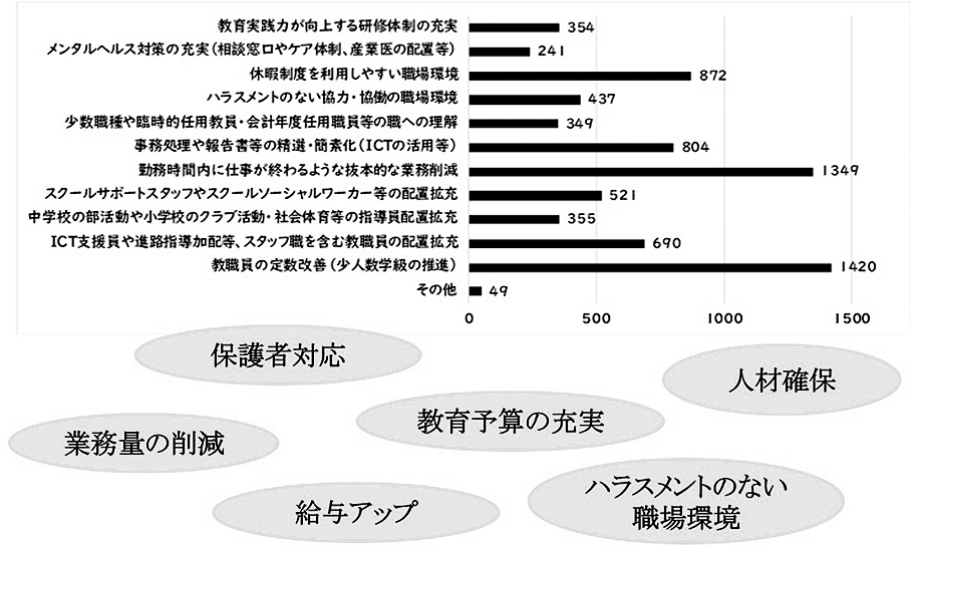
【図2】

Q. 小学校の教育課程外のクラブ活動・スポーツ少年団等や中学校の部活動等は、教職員にとって、負担であると思いますか？



【図4】

Q. 私たち青年教職員がいきいきと働き続けれれる職場であるために、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択可）



専門部等要請行動

兵教組は、給与確定交渉とは別に、
・臨時採用教職員部（11／2）
・栄養教員部（11／9）
・事務職員部・女性部（11／11）
・青年部・養護教員部（11／12）
各専門部が対県要請行動を積み上げ、学校現場の実情や要求を訴えてきた。
今後、
・障害児教育部・幼児教育部（12／9）
・同和・人権、多文化共生教育（12／18）
・芦屋国際中等学校（12／18）
が要請行動をおこなう。


臨時採用教職員部対県要請行動


栄養教員部対県要請行動


女性部対県要請行動


事務職員部対県要請行動


養護教員部対県要請行動


青年部部対県要請行動



高校生平和大使・兵庫
長崎研修＆ジュネーブ派遣報告会

10月25日、高校生平和大使・兵庫による長崎研修＆ジュネーブ派遣報告会をあすてっぷＫＯＢＥで開催し、活動を支援する労組・団体から約50人（うち、兵教組から10人）が参加した。



田中優空さん（園田学園高校）は、平和大使の活動とフィリピンでのボランティアを通して学んだことを報告した。
現地の子どもと関わる中で、改めて「幸せ」とは、その国、そこに住む人の価値観によって人それぞれ異なることに気づいたと語った。また、国際問題について、誰もが自分ごととしてとらえることの重要性を訴えた。

濱戸朱璃さん（豊岡高校）は、長崎研修報告をおこなった。
被爆講話や原水禁分科会などの参加を通して、平和への想いを伝える今後の活動の課題などを語った。また、長崎に集まった全国の高校生平和大使との交流では、同じ志をもった仲間との出会いが多くの刺激となったと話し、他府県の様子を知る中で、平和教育に地域差があることを課題に感じたと報告した。



第29代高校生平和大使・兵庫の二森美和さん（小林聖心女子学院高校）は、冒頭、長崎研修やジュネーブ派遣に参加できたのは、支援団体の皆さんからの支援があったからだと、兵庫のメンバーを代表して謝意を述べ、自身が経験したジュネーブ派遣報告をおこなった。
国連欧州本部軍縮部でのスピーチリレーでは、被爆の実相をひとつのストーリーとして伝えることを意識し、国や世代を超えて想いを伝えることが実現できたと話した。また、ジュネーブの各訪問地で、二森さんの曾祖母が広島で体験した「黒い雨」についても伝えることができたと報告した。その中で、レジンバル国連軍縮部ジュネーブ事務所長がうなずきながら丁寧に話を聞いてくださり、高校生を若きリーダーとして尊重いただいたことが印象に残っていると語った。
最後に、様々な場所で学んだことを、たくさんの人に伝えるとともに、今後も高校生平和大使・兵庫としての活動に活かしていきたいと力強く語った。

太子町長選挙
おきしお守彦さん 当選！



太子町長選挙が、11月1日に投開票され、連合兵庫・兵教組が推薦してたたかった元教育長（旧揖龍支部書記長）の「おきしお守彦」さんが8，286票を得て、二期めの当選を果たした。
「おきしお守彦」さんは公約でも掲げた「子どもたちが大きくなった時、感謝してもらえるまちづくり。誰一人取り残さないまちづくりをすすめていく。力を貸してください」と抱負を述べた。

「男女共同参画」コラム
第４回　「性別役割分担」から考える―
―家事・育児・介護は誰の仕事？

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方は、以前に比べれば少なくなったように感じます。しかし、家事・育児・介護などを女性が中心になって担う状況は、今も残っています。
これを考えるキーワードが「固定的な性別役割分担」です。「女性だから家事が得意」、「男性だから仕事を優先する」といった性別による役割の固定化は、一人ひとりの選択を狭めることがあります。
家庭だけの問題でもありません。職場でも、「子育ては女性がするもの」という意識があれば、女性に仕事を任せにくくなったり、男性が育児休業を取りづらくなったりします。
大切なのは、「誰がやるべきか」を性別で決めるのではなく、「誰が担いたいのか」、「どうすればみんなで担えるのか」を考えること。
家事も育児も介護も、そして仕事も。性別ではなく、一人ひとりの希望や状況を尊重できる社会をつくることが、男女共同参画につながります。

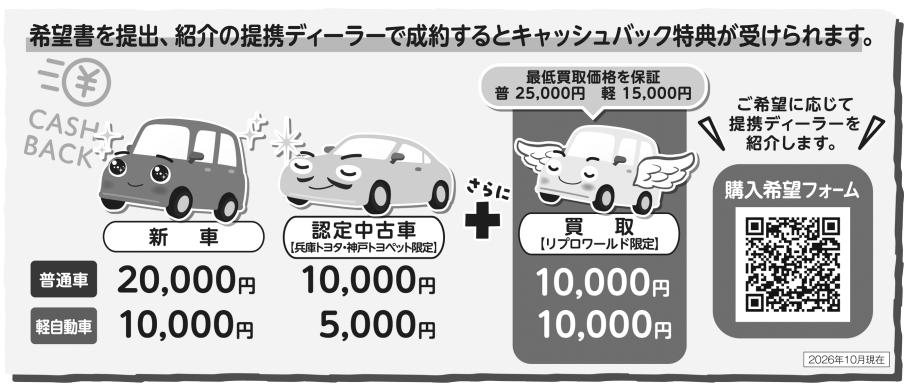
兵教組は26年３月に「第二次男女共同参画推進計画」を策定しました。この計画にもとづき、誰もが参画でき、活躍できる組織をめざしていきます。

車の購入はお得に！　まずは厚生会にご連絡ください

スマイルオーナーズプラン

「新車購入希望書」を提出いただき、厚生会からの紹介によって成約すると、キャッシュバック特典があります！

重 要　必ず商談前に厚生会へご連絡ください。



自　動　車　貸　付

貸付範囲（10万円単位）
10万～500万円

2027年
２月９日（火）受付分まで
年 利（固定金利）
1.30%

自動車購入のほかに・・・
◆自動二輪（原動機付自転車含む）の購入
◆他金融機関の自動車ローン返済　◆車検費用
◆運転免許取得費用　◆修理費用　にも利用できます

※会員の配偶者および２親等以内の親族が使用する自動車等の費用にも利用できます。



自動車貸付の詳細
他の貸付の詳細

問合せ　（一財）兵庫県学校厚生会
車の購入　生活用品課　TEL（078）331－9305
自動車貸付　信用共済課貸付係　TEL（078）331－9974